

6 豚コレラ清浄化記念大会の開催

6 豚コレラ清浄化記念大会の開催

平成19年9月11日（火）、虎ノ門パストラルにおいて標記記念大会が農林水産省、（独）農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所及び（独）農畜産業振興機構の後援と養豚・衛生関係21団体の協賛の下、（社）全国家畜畜産物衛生指導協会、（社）日本獣医師会、（社）日本動物用医薬品協会及び（社）日本養豚協会の共催（豚コレラ清浄化記念大会運営委員会）により挙行された。

記念大会では、265名の出席のもと下記のとおり記念式典、養豚衛生シンポジウム及び祝賀会が行われた。

記念式典では、本大会運営委員会委員長の本会瀧口次郎会長が主催者を代表しての挨拶の後、農林水産省町田勝弘消費・安全局長及び（独）農業・食品産業技術総合研究機構谷口稔明動物衛生研究所長が来賓挨拶を行った。

豚コレラ清浄化経過について全国家畜畜産物衛生指導協会宮島専務理事が報告し、その後、当大会共催4団体に農林水産大臣から感謝状の授与が行われた。

養豚衛生シンポジウムは、主催者代表として（社）日本養豚協会浅野九郎治会長の挨拶の後、清水悠紀臣氏、山田俊治氏及び石川弘道氏の3名の講演が行われた（別紙）。

祝賀会は、（社）日本獣医師会山根義久会長の挨拶ではじまり、農林水産省生産局本川一善畜産部長が来賓祝辞を述べられた。農林水産省家畜衛生試験場（当時）で豚コレラの診断及びワクチンの開発を担当し、豚コレラ防疫技術検討会委員でもあった熊谷哲夫氏の乾杯で祝宴に入り、（社）中央畜産会南波利昭専務理事、千葉県鶴岡則夫畜産課長、全国家畜衛生職員会戸谷孝治会長及び日本養豚生産者協議会志澤勝会長から祝辞があり、主催者代表の（社）日本動物用医薬品協会岡本雄平理事長の挨拶で閉会した。



記念式典



農林水産大臣から共催4団体に
贈られた感謝状

「豚コレラ清浄化記念大会」での大会運営委員長 (社) 全国家畜畜産物衛生指導協会 瀧口次郎会長の開会挨拶

本日ここに、豚コレラ清浄化記念大会の式典を執り行うにあたり、主催者を代表し、一言御挨拶を申し上げます。

この記念大会は、御案内申し上げましたとおり、我が国の養豚経営者及び防疫関係者の永年に亘る悲願であった豚コレラの撲滅達成を記念し、これらに深く係わる社団法人日本獣医師会、日本動物用医薬品協会、同じく日本養豚協会及び私ども社団法人全国家畜畜産物衛生指導協会が中心となっており、関係団体の協賛をいただき開催する運びといたしましたところであります。

本日は、全国各地から、豚コレラ防疫に努力してこられた方々と中央関係機関のご参加を得て、本大会を盛大のうちに開催されることは、誠に意義深くご同慶に堪えないところであります。

また、ご来賓として大変ご多忙中のところ、農林水産省から町田消費・安全局長をはじめ、多くの関係者のご臨席を賜りましたことに対し、心より感謝申し上げる次第であります。

さて、ご高承のとおり、我が国で本病の発生が報告された明治 20 年（1888 年）を初発とし、爾来、全国各地でまん延猖けつを極め、平成 4 年（1992 年）最終発生までの一世紀以上に亘り、養豚経営に莫大なる損害を与えたとともに、行政的にも多大なる予算と労力を費やしてきたところであります。

とりわけ、昭和 30 年代以降、食生活の多様化に伴い、養豚経営においても、選択的拡大、近代化の波に乗り、多頭化に向かってきた中で、安定的経営を図る上では、豚コレラ予防注射を継続することが不可欠であり、永久的に開放されることは無いとまで考えられていたところであります。

こうした中であって、今日、本病の清浄化が達成されたことは、ひとえに、関係の研究機関の研究者達におかれては、地道な研究を積み重ね、国際的にも高く評価された極めて有効な生ワクチンの開発・製造と、卓越した診断技術の開発が、この清浄化を加速させた大きな要因であります。

加えて、行政や関係機関においては、家畜保健衛生所の整備統合に伴い防疫体制の確立が図られ、また、自衛防疫思想の法制化により、各都道府県に設立された家畜畜産物衛生指導協会における各防疫員、獣医師達の活発なる活動により、本病の清浄化促進の原動力となったもので、これらの方々に対し、改めて心から敬意と感謝の意を表するものであります。

これまで申し上げて参りましたとおり、今回、豚コレラの清浄化は、我が国防疫に携わる研究、行政、団体、生産者の方々の努力の積み重ねた上で開花したものであり、このことは、我が国家畜防疫史上の一頁に末永く燦然として輝くものと確信いたして

おります。

今や、国際化、経済のグローバル化にあつて、やがて WTO 交渉再開による農産物に対する関税の削減攻勢や、一方では世界の潮流である二国間における経済連携協定（EPA）及び自由貿易協定（FTA）の締結に向け、我が国においても積極的に進められているところであり、これらのことは、農畜産経営に厳しい影響を与える環境にあり、また、各種の疾病、感染症等の侵入の頻度も高まることは、否定できない状況にあります。

私どもとしては、これら国際情勢に鑑み、常に各種感染症の発生状況を把握し、侵入防止に努める一方、飼養衛生基準に則り、健康な家畜から安全な畜産物を生産する制度を構築し、消費者に対する信頼性を高め、国内畜産物の消費拡大に資することについて、改めて決意を新たにしているところであります。

これら目的達成のため、既に発生しているオーエスキー病をはじめ、各種の疾病についても、豚コレラ清浄化で培ってきた力をもってすれば、必ずや撲滅可能にすることが出来るものと信じてますが、本日この後のシンポジウムにおいて、関係各位より、これまで豚コレラ清浄化に当たった御努力と輝かしい功績など紹介していただき、更にオーエスキー病対策を含め、今後、新たな養豚衛生への取り組みについて講演していただくこととなっております。

更に、その後には意見交換・懇親の場を予定させていただいておりますので、皆様こぞでご参加して下さいますようお願い申し上げます。

終わりに臨み、明治 20 年から発生し続けてきた豚コレラが、この度、清浄化するに至った偉業を称えるとともに、我が国が今後とも豚コレラ清浄国として、発生予防のため万全なる施策を講じ歩み続けることを、本日ここに、大会の名において世界各国に対し、宣言するものであります。

最後に、本日の記念大会が、豚コレラ清浄化にあたられた多くの皆様の御努力と御功績の軌跡を温めることにより養豚衛生の推進にあたり、大いなる飛躍の機会となり、今後、我が国の家畜防疫における貴重な礎となりますことを、心より御期待申し上げます次第であります。

今後とも、国をはじめ、関係機関及び関係団体のより一層の御指導・御支援を賜いますとともに、本日、お集まりの皆様におかれては、益々ご健勝にてご活躍の程をお祈りしますとともに、今後の我が国の家畜衛生体制がより一層強固なものとなって社会の負託に応えていきますことを心より祈念申し上げ、開会にあたっての御挨拶とさせていただきます。



「豚コレラ清浄化記念大会」での 農林水産省消費・安全局 町田勝弘局長の挨拶

本日ここに、豚コレラ清浄化記念式典が開催されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

本日お集まりの皆様におかれましては、日頃より、家畜衛生や養豚の経営に関する幅広い活動にそれぞれのお立場から御尽力賜り、食の安全と消費者の信頼確保に多大な貢献を頂いておりますことについて、この場をお借りして、深く敬意を表する次第です。

豚コレラの防疫の歴史を顧みますと、明治20年に我が国で初めて発生して以来、個々の農場経営のみならず、我が国の畜産業や関連する分野に甚大な影響をもたらしてまいりましたが、こうした中で、世界的にも優れた生ワクチンが開発・実用化された昭和四十年代半ば以降その被害は大きく減少しました。

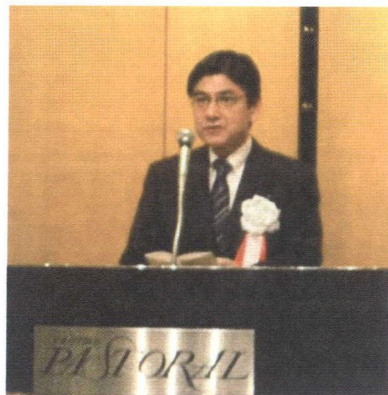
さらに、平成八年からは、関係団体、生産者と行政が一体となり、全国的に清浄性を確認しつつ、ワクチンを全頭に接種したのちにワクチン接種を完全に中止するという本病の清浄化が進められてまいりました。

清浄化に向けた取り組みにつきましては、当初、生産者の方々から不安の声もありましたが、豚コレラ清浄化の意義を理解していただき、関係者が一体となって取り組んだ結果、清浄化が図られ、本年4月1日には、OIEによって豚コレラ清浄国と認められるに至りました。

今般、豚コレラの清浄化が図られたことは、我が国の家畜衛生史上においても大きな成果であり、この間、積極的な活動を進めていただきました社団法人全国家畜産物衛生指導協会、社団法人日本獣医師会、社団法人日本動物用医薬品協会並びに社団法人日本養豚協会をはじめとした関係者の皆様方の御尽力に深く感謝申し上げたいと思います。

今回の豚コレラ清浄化達成という成果を踏まえ、我が国の家畜衛生の更なる向上や安全な畜産物の安定供給に向け、引き続き御尽力賜りますようお願いいたします。

結びに、本日お集まりの皆様の方々の御発展と御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



「豚コレラ清浄化記念大会」での 動物衛生研究所 谷口所長の挨拶

豚コレラ清浄化記念大会が本日、盛大に開催されますことをお慶び申し上げますとともに、動物衛生研究所を代表しまして、お祝いのご挨拶を申し上げます。

今回の記念大会の運営委員会の委員長を務められた全国家畜畜産物衛生指導協会の滝口会長はじめ、関係者の皆様方、さらには、本日お集まりの皆様方には、日頃から動物衛生研究業務の推進に対して、厚いご協力及び暖かいご支援を賜り、改めて皆様方にも心からお礼を申し上げる次第です。

本日の大会は、豚コレラ清浄化記念大会運営委員会の皆様方のご尽力にて、記念大会の開催が迎えることができましたことに対して、心からお礼と感謝を致す次第です。豚コレラにつきましては、平成4年以降発生はなく、平成8年から文字通りのオールジャパンで日本の家畜衛生関係者が総掛かりでワクチンを使用しない防疫体制を確立し、本病の完全な清浄化を達成することを目標に撲滅対策に取り組んで来られました。その成果が今年の4月に国際的にも清浄国と認定されることに実を結び、我が国の長年の願いでもありました豚コレラの撲滅を達成されました。このこと自体は我が国におけるこれまでの家畜衛生の取り組みの中でも歴史的にも極めてすばらしい快挙であると嬉しく思っている次第です。

この快挙を果たすに到った背景には、国、都道府県、民間の防疫関係者の皆さんや豚生産者の皆様方が一丸となって撲滅に取り組んで来られた成果であり、特に生産者の皆様のご理解と熱意が大きく貢献されているものと思っております。

また、豚コレラの撲滅には、家畜衛生試験場にて開発された「豚コレラ GP 生ワクチン」がこれまで30数年間使用され、豚コレラの発生を低減化してきた役割は大きく、このワクチンの研究開発から実用化に取り組んで来られた試験場並びに動物医薬品関係者の諸先輩の功績にも改めて敬意を表する次第です。

省みて現職のわたくしどもも、国や都道府県の行政部局、民間の防疫関係者の皆様や生産団体の方々との連携協力の下で畜産業の振興と食の安全・安心の確保に貢献することを目的に、豚コレラの撲滅を達成したという偉業を範として、家畜衛生分野の研究活動をより一層展開し、重要家畜疾病の撲滅に貢献して行きたいと思っております。

ところで、我が国の豚の衛生問題については、国内では豚オーエスキー病、PRRS、サーコウイルス感染症といった生産現場での豚の生産性を低下する大きな障害となる疾病が依然と発生しております。これらは畜産経営を圧迫する重要な衛生問題でもあり、さらに昨今のトウモロコシ等の飼料価格が高騰する中では、畜産経営の安定化や安全安心な畜産物の供給のためにも、これらの疾病の被害の低減化や清浄化のための総合的な防除技術の開発が益々必要になっています。

また、海外では、国内で清浄化を果たした豚コレラや口蹄疫については依然と猛威をふるっています。そのためこれらの重要疾病の国内への侵入防止が大変重要となっており、今後の発生の動向を見守る一方で、我が国内への侵入防止等に対して迅速かつ的確な対策が必要となっております。

これまで長年にわたって取り組んでこられた豚コレラ撲滅の中で、全国の家畜衛生関係者が培った防疫技術、飼養衛生管理技術や知識が、今後はオーエスキー病の清浄化や海外病の侵入防止に向けた大きな取り組みに発展し、豚の疾病の防除に関する理解をより一層深め、豚の疾病の防除技術の研究の進展及び健康な豚の生産や育成に大きく貢献されますことを祈念しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



豚コレラ清浄化記念大会 概要

○記念式典 祝辞／豚コレラ清浄化経過報告／農林水産大臣感謝状授与 など

○養豚衛生シンポジウム

(1) 豚コレラ清浄化までの歩み

講演 清水 悠紀臣
(北海道大学名誉教授)

座長 柏崎 守
(元農林水産省家畜衛生試験場 場長)



(2) 今後のオーエスキー病防疫対策

講演 山田 俊治
(農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所
上席研究員)

座長 清水 実嗣
(元農業・食品産業技術総合研究機構
動物衛生研究所 所長)



(3) 新たな養豚衛生への取組み

講演 石川 弘道
(（中）日本養豚開業獣医師協会 代表理事)

座長 津田 知幸
(農業・食品産業技術総合研究機構
動物衛生研究所 研究管理監)



< 敬称略 >

○主 催 (豚コレラ清浄化記念大会運営委員会)

(社) 全国家畜産物衛生指導協会
(社) 日本動物用医薬品協会

(社) 日本獣医師会
(社) 日本養豚協会

○協 賛

全国開拓農業協同組合連合会
全国畜産農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会
(財) 畜産生物科学安全研究所
(中) 日本SPF豚協会
(社) 日本食肉格付協会
(社) 日本食肉協議会
(財) 日本食肉流通センター
日本豚病研究会
(中) 日本養豚開業獣医師協会
日本養豚生産者協議会

全国家畜衛生職員会
(社) 全国動物薬品器材協会
(社) 畜産技術協会
(社) 中央畜産会
(社) 日本家畜輸出入協議会
(社) 日本食肉加工協会
(財) 日本食肉消費総合センター
(社) 日本畜産副産物協会
日本ハム・ソーセージ工業協同組合
日本養豚事業協同組合

○後 援

農林水産省
(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所
(独) 農畜産業振興機構

編集委員

(アイウエオ順、敬称略)

今井 正夫	元財団法人 畜産生物科学安全研究所 理事長 (編集委員長)
石井 達郎	社団法人 全国家畜畜産物衛生指導協会 副会長
小倉 弘明	農林水産省 生産局 畜産部 畜産振興課 首席畜産専門官
津田 知幸	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生 研究所 研究管理監
福所 秋雄	日本獣医生命科学大学 教授
古内 進	元農林水産省 家畜衛生試験場 生体防御研究部長
三浦 克洋	社団法人 畜産技術協会 参与

事務局

宮島 成郎	社団法人 全国家畜畜産物衛生指導協会 専務理事
三浦 克洋	社団法人 畜産技術協会 参与

豚コレラ防疫史 (非売品)

平成 21 年 2 月発刊

発 行	社団法人 全国家畜畜産物衛生指導協会 社団法人 畜産技術協会
編 集	豚コレラ防疫史編集委員会
監 修	農林水産省 消費・安全局 動物衛生課

制 作 悠書館

〒 113-0033 東京都文京区本郷 2-35-21-302
電話 03 (3812) 6504 FAX 03 (3812) 7504

